

# 保育のお仕事体験について

本県における保育人材の確保と定着を促進するための方策等を議論するため、平成26年度から島根県、島根県社協、島根県保協などで構成する「保育の就職支援プロジェクト会議」を設置して検討をすすめてきました。



この会議の中で、中学生・高校生の段階における保育体験は、異世代理解にとどまらず、将来の親として必要な基礎基本、子育ての意義や家庭を持つことの大切さを理解するうえで重要な役割を果たすことから、保育体験プログラムを体系化して学びの質を深める必要があるとの意見集約がなされました。

これを受け、同会議において従来から行っている保育体験に加えて事前学習や事後評価(振り返り)のプログラムを加えた「保育のお仕事体験受入の手引き」を作成するとともに、同手引きに基づいた体験を県社協と県保協が協働して全県的に展開していくことになりました。

具体的な体験の実施にあたっては、中学校や高等学校の総合的な学習の時間を利用した職場体験や家庭科等の授業の一環として行われる保育体験に参加する生徒に対して、県保協の会員保育所(受入可能と回答をいただいた保育所に限る)が手引きに添って保育体験の受入れを行います。

今後この手引きを活用した保育体験が県内中学校及び高等学校で広く実践されるよう、普及・啓発に向けた取組みを推進していきます。

# エルダー制度について

エルダー研修成果報告会を2月8日に大田市民会館で開催しました。

研修会に先立って1年間を振り返ってのアンケートを実施したところ、エルダーが自分自身の成長や、新人に対しての良い影響について実感できなかった、という回答が多かった事をふまえ、研修ではその点を留意して進めて行きました。

グループワークでエルダーとして自分が行ったことを話しあい、その中から一つエピソードを選んで、ペーパーサートを作り発表しました。グループで話し合い、ペーパーサートを作る中で、1年間で自分が感じた事、新人に対して思った事、園全体の様子などを振り返り台本を作り上げました。その台本はどれもエルダーがいて良かったという内容になり、エルダーの役割りの重要性を再確認できるものばかりでした。最後の発表の時には、ストーリーに「そう、そう」と言いながら全員で取組みを共有できました。



## ◆平成29年度 大会・研修会◆

大会・研修会名	開催日	開催地	講師等
総会	6月1日(木)	松江市 県合同庁舎講堂	島根大学大学院 教授 原 広治氏
主任保育士・主幹保育教諭研修会	6月19日(月)	出雲市 パルメイト出雲	元立教女学院短期大学 教授 今井 和子氏
児童福祉施設調理担当者研修会	7月1日(土)	出雲市 ニューウェルシティ出雲	食と農のコンシェルジュ(株)Graine 代表 伴 亜紀氏
保育者スキルアップ研修会	7月8日(土)	出雲市 ニューウェルシティ出雲	東洋大学 教授 高山 静子氏
第63回中国地区保育研究大会	7月27日(木)~28日(金)	鳥取市 とりぎん文化会館	人間脳科学研究所 所長 澤口 俊之氏
隠岐地区研修会	8月5日(土)	隠岐の島町 隠岐島文化会館	島根大学大学院 教授 原 広治氏
保育者のつどい	9月9日(土)	江津市 江津市総合市民センター	島根大学大学院 教授 肥後 功一氏
保育所職員研修会	9月14日(木)	大田市 あすてらす	玉川大学大学院 教授 大豆生田 啓友氏
保育所長研修会	10月20日(金)	出雲市 ビッグハート出雲	関西大学 教授 山縣 文治氏
第51回全国保育士会研究大会	10月26日(木)~27日(金)	富山市	調整中
第61回島根県保育研究大会	11月4日(土)	邑南町 元気館	子育てカウンセラー 心療内科医 明橋 大二氏
第61回全国保育研究大会	11月15日(木)~17日(金)	神戸市 ポートピアホテル	調整中
保育所経営セミナー (社会福祉法人経営者協議会と共催)	調整中	調整中	調整中

## 編集後記

広報委員として2年間、沢山の皆さまにご協力をお願いし、快くお受けいただきうれしく思いました。県保協だよりをはじめとして、大きな大会を開催する事の大変さを感じました。大会等を担当する所のご努力を感じる度に、会員の皆さまにどのように知って頂ければいいのか委員会の中で考えてきました。これからも、益々のご活躍を願いながらお礼とさせていただきます。

# 島根県

# 保育協議会だより

第57号

発行日 平成29年3月31日 発行者 島根県保育協議会 編集者 総務広報委員会

## 任期二年を振り返って

島根県保育協議会 会長 山口 記由  
(浜田市保育連盟 ちどり第2保育所)



思い返せば二年前、講堂の壁に掲げられた総会の演題が、春風の悪戯で少しずつ剥がれ落ちていく様に、肩を震わせ笑いを堪えていた県内各地から集まった200名を超える園長先生方。新役員の紹介では皆さんの笑顔と温かい拍手に背中を押され、新体制がスタートいたしました。

就任一年目の27年度は子ども・子育て支援新制度が始まり、そのすべてを消化しきれないまま、平成28年度は翌年度からの社会福祉法改正への対応を迫られるなど、保育所の運営経営に関わる者にとっては、保育現場への注意を払いつつ、常に国の動きに意識を向けた二年間だったと思います。

先頃開催された中国地区正副会長会議では処遇改善(キャリアパス)に関する意見交換の中で、どう職員に説明すればいいのか?現場の中での職員間の輪が乱れてしまう。と不安視される園長先生もおられました。

また中国ブロック長である山口県の渡邊会長から、新制度そのものに失望し、複数園を運営する地元の法人さんが廃園を決めたという残念な報告もありました。

昭和の時代の保育を知る先生方にとっては、時代の流れとは言え、様変わりしていく保育界の現状を受け止めきれないと感じてしまうのも理解できます。しかし大多数の保育関係者はこの時代を生きる保育者として、懸命に制度を理

解し実践していくことで、県内どの地域にあっても保育現場に課せられた使命を全うしようと努力されておられます。

2月の涅槃会の集会の中で、おしゃかさまが最後に弟子たちに残した言葉として、次のようなお話を子ども達に話しています。

「目の前を流れる川の水はいつも同じ水ではない。時代という川の流れに合わせ、人は絶えず学ばなくてはいけない」

平成30年度には保育指針の改定が控えています。子どもに関わるすべての大人が、これからの保育界の変革に取り残されることのないよう、今後も島根県保育協議会が主催します研修をはじめとするさまざまな事業に対しまして、ご理解とご協力をお願い致します。

最後になりましたが、今期、役員をお努めいただいた先生方をはじめ、市郡組織の皆様には大変お世話になりました。また、県大会、研修会等でお世話になりました地元の皆様にも感謝申し上げます。

着ぐるみで登壇した史上初の会長として、記憶に留めていただければ幸いです。



# 理事任期を振り返って

## 副会長 森山幸朗

雲南保育協議会(あおぞら保育園)



保育新制度が施行されてから、はや2年。施行までに十分な検討がなされず、見切り発車で保育者や保護者、地域、そして子どもたちにも混乱をもたらしました。施設間での処遇格差が明らかになり、保育士不足も深刻。企業参入や規制緩和では保育の質の向上は望めません。この間、制度の問題と改善点を明らかにして活動を重ねました。今、公定価格の引き上げ、配置基準の改善が最も緊急で重要です。保育指針等の改定が、教育と一体的に扱うべき養護の位置づけを変え、現場に不当な圧力と評価で、結果として保育内容の統制を強いることのないよう、会員みなさんの研鑽を願っています。ご協力に感謝します。

## 副会長 吉村里恵

益田市保育研究会(原浜保育所)



東西に長い島根県。それぞれの市町村で抱えている課題は様々なようですが、役員同士が保育の質とは、職員の質の向上とは、これからの保育は、などなど地域の子どもの育ちや私たちの役割を一緒に考えられた2年間でした。年中組だった子どもたちは今年度卒園。長い年月のようですが、保育所の子どもたちを大人の視点から見ていると「あっ!」という間の2年です。子どもは「今日」という日の時間の流れが遅く感じるのに対して大人はとても短いと感じる、というお話を聞いたことがあります。それはこれから起こる「楽しみ」を待ち遠しいと思うから。日々仕事に追われる、と思うのではなく子どもたちと楽しむ、という考え方をもちこれからは島根の保育に従事していこうと思います。皆様、ありがとうございました。

## 副会長 古川泰道

出雲市保育協議会(浜山保育園)



平成27年度から、県保協で理事として活動させて頂きました。時を同じくして「子ども子育て支援新制度」がスタートしましたから、制度がなだかよく掴みずにはテンパっていたことをよく覚えています。その新制度、「量と質の両面から子育てを社会全体で支えます」というのがスローガンの一つだったように思いますが、2年経ったいま、保育施設、つまり量は増え質も向上(したと思いたい)していますが、なかなか待機児童が減らないのが現状です。一方で、職員の処遇改善は遅ればせながら急速に進みつつあり、事務面などで課題は残るものの、安倍総理が財源の担保をしてくださったことを素直に喜びたいと思います。最後になりますが、山口会長の研修会での「パンダ着ぐるみ事件」は、県保協の黒歴史として永久保存すべきと主張し、任期の振り返りと致します。

## 総務広報委員長 杠 佳子

松江市保育研究会(松江市立恵曇保育所)



二年間の任期を終える今、寂しい気持ちでいっぱいです。県保協の役員は5年前に保育士部会長、今回は総務広報委員長をさせて頂きました。“県保協だより”は皆さまに関心をもって頂けるように内容を考えてまいりましたがいかがでしたでしょうか。私の思い出としては、ドキドキしながら大豆生田先生にインタビューをさせて頂いたことでしょうか。とても丁寧な回答頂き感動しました。また、保育所制度の変動に戸惑いながらも、理事の皆さまとの出会いの中で学びもあり嬉しい出逢いも沢山頂きました。事務局の皆さまには大変お世話になりました。ごさいました。県保協の更なる発展をお祈り致します。

## 研修委員長 岩田博子

調理担当者部会長

浜田市保育連盟(波佐保育園)



ご縁をいただき調理部会長と研修委員長をさせて頂きました岩田博子です。会議に参加するたびに個性派の先生方に圧倒され、田舎侍が江戸に参上したような衝撃を受けた私でした。(私も個性派の一人ではありますが...) できることならずっとお世話になりたい、そんな素敵な役員メンバーでした。深く任期を終えこれからは参加者としてお世話になり次期役員の方々に応援してまいります。皆様ご協力ありがとうございました。

## 予算対策委員長 岩倉善光

大田市保育研究会(みどり保育園)



この度初めて理事として選出され、予算対策委員長を務めさせて頂きました。会員の先生方の声を届ける重要な役職であり、陳情活動だけでなく社会福祉法人制度改革という大きな変革期の中、私自身にとっても大変学びになりました。山口会長・森山副会長・朋澤先生に度々ご指導をいただき、何とか職務を全う出来たと思います。皆様に支えられ、多くの学びを得た2年間でした。ありがとうございました。

## 総務広報副委員長 大場弥生

邑智郡保育研究会(おおち保育園)



総務広報委員として2年間楽しく編集に携わらせていただきました。自分自身は微力でしかありませんでしたが、役員の方のおかげで、沢山の学びと出会いをさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。各種研修会も県保協だよりも役員の方が、会員の皆さんに県保協の思いや研修会がより学びの多いものとなるように考えてくださっているおかげであることを肌で感じたことも大きな学びの一つでした。ありがとうございました。

## 研修副委員長 森野洋子

江津市保育研究会(めぐみ保育園)



理事としてのこの二年間は、これから先を真剣に考えさせてくれた時間でした。保育の現場は、これまで多くの善意と意欲に支えられてきました。今、保育士不足と処遇が社会的な注目を集めています。多くの課題はありますが、豊かな労働環境になり、島根に若い力が集まることを心より願い、今後の保育協議会の活動にエールを送ります。ありがとうございました。

## 予算対策副委員長 朋澤公香

かのあし保育協議会(吉賀町双葉保育所)



「ひゃ〜。」「しまったあ。」「場違いだったあ。」の3つの言葉がぐるぐるする中、初めての理事会の場に居させて頂きました。急ぎの任期途中の1年のご縁でしたが、自分の社会状況を踏まえた保育事業の認識と問題意識の薄さに打ちのめされました。が、会長さんをはじめ、理事の先生方、事務局の方々に優しく接していただき、本当に涙が出るほどうれしかったです。力不足ですが、島根県の保育現場で子どもたちを大事にみていく思いを大きくして頂きました。ありがとうございました。

## 公立施設長部会長 宅野文子

かのあし保育協議会(津和野町立青原保育園)



部会長としての2年間の任期を終えることとなり各所(園)長先生方には支えていただき、本当にありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。大きな不安と戸惑いを抱えてのスタートでしたが、会長始め理事の先生方の温かい人柄と、いつも細やかなお気遣いをして下さる事務局の方々のおかげで、あっという間の2年間でした。小さな組織から県保協の役員の一員として活動する中で、視野も大きく広がり、多くを学び、刺激もたくさん受け、自分自身(園)を見つめ直す機会を頂いたように思います。ありがとうございました。

## 私立施設長部会長 松本文子

邑智郡保育研究会(東保育所)



所長になってからまだ間もない自分にはたして勤まるのだろうか、と不安だらけのスタートでした。この役を頂いたからこそその経験をさせて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。部会や委員会では先生方の保育への熱い思いとそのお人柄に触れ、次にお会いするのが楽しみに思うほどでした。充分なことは何もできませんでしたが、職場や多くの人に支えられての2年間。遠く遠く感じていた松江が今は懐かしい場所に・・・ありがとうございました。

## 保育士部会長 若槻紀子

雲南保育協議会(八川幼稚園)



全国や地域の研修企画・運営に携わらせていただくとともに、自己研鑽の場を与えていただいたこの2年間…。多様な学びや気づきを自分自身だけのものにせず、伝え、広める努力をしていきたいと思えます。人と人が出会い、支え、助け合うことを大切に、保育の仕事に携われることを誇りに感じながら、今後も自分の役割や働き方を考え、専門性の向上に務めていきたいと思えます。ご尽力いただきました部員の皆様、温かくご指導賜りました役員・事務局の皆様方に感謝いたします。県保協の更なる発展を祈念しております。